



広島県東部アサリ協議会（浦島地区）

浦島地区について

浦島地区は、尾道市南東部の浦崎町、百島町と、福山市西部の金江町、藤江町からなる。地区の産業は、農業や漁業が主体で、漁業は採貝や刺網、小型定置網などが営まれている。

地区の海岸線には国や県が造成した人工干潟が複数あるのが特徴で、ここでは採貝を中心とした漁業が行われている。

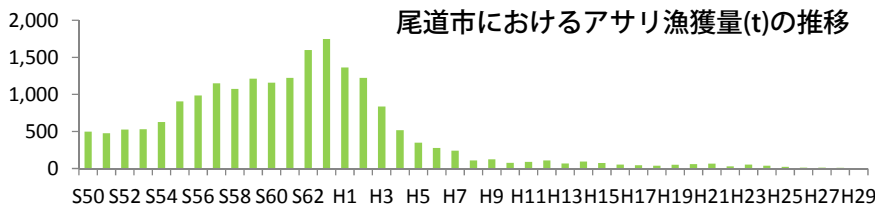


干潟の現状とこれまでの取り組み

(1) 干潟の現状

浦島地区に複数造成された干潟は、アサリ等の二枚貝の生息場、魚介類等の産卵・育成場として機能しており、地区の基幹産業である水産業の重要な生産場となっている。

しかし、現在、①干潟における砂の移動、②クロダイ・エイ類等による二枚貝の食害、③地区の松永湾側にあるアサリ一大生産地「山波の洲」における資源量減少による稚貝供給量の低下によって、アサリ資源が大きく減少しており、干潟の生産力や生物多様性機能の劣化が懸念されている。

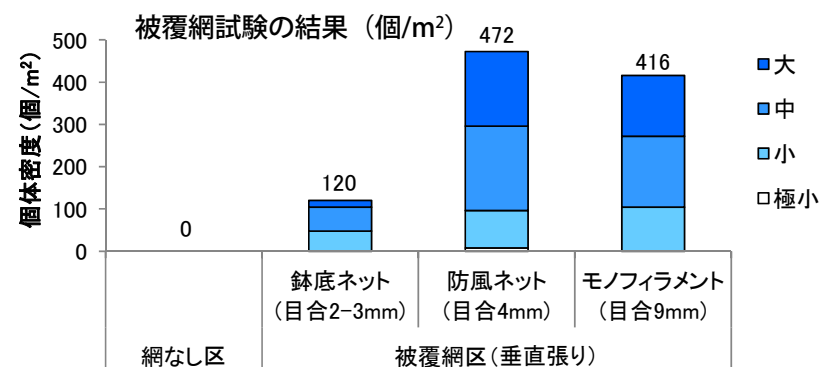


(2) これまでの取り組み

アサリ資源の再生を目的に、平成 25 年度に「広島県東部アサリ協議会（浦島地区）」を結成した。

当該地区におけるアサリ資源再生のポイントは①効果的な稚貝の確保、②風波による稚貝の逸散防止、③クロダイ・エイ類の食害対策である。そこで、①「網袋」を活用した稚貝の確保、②「被覆網」を用いた食害・逸散対策を実践し、現在、主要な活動場所では一定の成果をあげている。

また、昨年度は、風波の影響が大きい藤江町の干潟に新たな活動場所を設け、「被覆網」の網の素材や設置方向の試験を行った。その結果、耐久性が良く・扱いやすい（軽い等）目合 9mm のモノフィラメントを、海岸に対して垂直に設置する方法がアサリの生残・育成に効果的であることが判った。



新たな挑戦！ 環境に応じた網設置方法の検討

これまで主に活動を行ってきた地区では、被覆網等の対策によってアサリ資源の回復が図れるようになってきた。しかし、波浪や砂の移動によって被覆網が剥がれたり、網の上に砂が堆積する場所、またその場所が年によって変化したりするなどの問題が局所的にみられ、その対策が新たに求められた。

(1) ロープを使用した方法

これまでは被覆網を杭で刺して固定していたが、波浪による網剥がれや砂の堆積を軽減するために、ロープを使用した方法を試みることにした。この方法は、固定場所を数か所外すだけでカーテンのように網をスライドして開くことができることから、モニタリングやアサリの間引き等の作業の効率化にもつながる。



(2) 網袋を使用した方法

砂の移動が大きい場所では被覆網のほとんどが埋没してしまう。網が埋没すると、アサリの保護・育成機能が失われるのはもちろん、その維持管理も大変になる。そこで、砂が多く堆積する場所では、稚貝の確保・保護で使用している網袋を土手のように並べ、被覆網を砂の移動から保護するとともに、稚貝の確保を図る。



今後の課題・方針

干潟の環境は複雑で、同じ地先の干潟でも波あたりや砂の堆積状況、稚貝の分布が異なることがこれまでの活動で判ってきた。

今後、活動の効果をより高めていくためには、その場所の環境に応じた対策を柔軟に図っていく必要がある。

また、環境によって対策の方法を変えるだけでなく、稚貝確保の場所と食害・逸散対策の場所を分けるなど、活動の目的により場所を使い分けることで、さらなる効果の向上を図っていきたい。

